

子ともに
いつから産んでも
よいことになるのか？

まず私が考え直さねばなら
なかつたのは、「子どもを産
めるようになるまで待てる、
待つべきだ」という前提で
す。もちろん、いつになつた
ら産めるのかは、人それぞれ
です。二人とも学業を終えた
ら、経済的に安定したら（そ
れが何を意味するかはともか
く）、妻の仕事が定着した
ら、などなど。

もちろん、こういう選択が
可能なのは、避妊ができるこ
とが大きな理由です。避妊が
あまりにも簡単にできるた
め、私たちは選択肢があるこ
とを当然のように考えていま
す。これはおかしなことで
す。なぜなら、性と出産につ
いて、私たちはえてして歪ん
だ態度を持つてしまいやすい
からです。

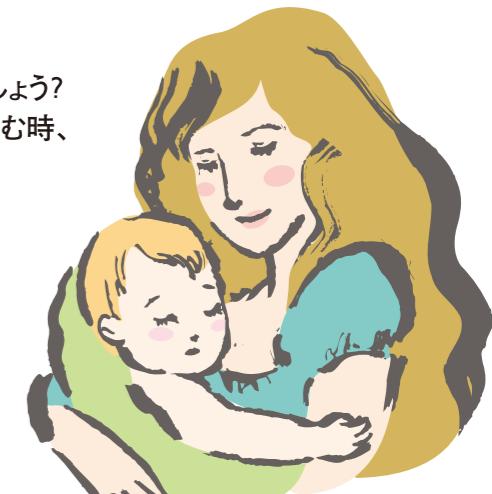
男女がいつでもどこでもだれとでもセックスできると考へる社会に私たち生きている、ということです。このいわゆる自由が可能であるのは、避妊と中絶の二つが、好ましくない結果を避けられるようになっている、と考えられているからです。その好ましくない結果の一つが、妊娠です。

ですから、少なくとも独身者にとつては、避妊は、ふしだらな生活、また子どもを避けるべきまちがいとみなすよう生きる道を開いています。私は、「避妊法がだれかをふしだらにする」とか、「避妊をする人はみんな子どもを軽く見てる」とか、「中絶を許している」とか言つていいのではありません。ただ、避妊が、そういう態度を持ちやすくしているということです。

An illustration of a blue rocking chair with a pink bow, decorated with green leaves and pink flowers, with three balloons (yellow, red, blue) tied to its back.

避妊について 考えるべきこと

避妊とは、妊娠を避けるための方法です。
しかし、これについて私たちはどのような態度をとるべきなのでしょう?
クリスチャンの世界観という立場から避妊と言うテーマに取り組む時、
私たちは何を考えるべきなのでしょう?



リンディー・キーファー

たちはどこで、娘結婚間はそれまでにない深い会話を交わす時になりました。それまで別々に暮らしていた二人の生活を一つにするとは決して楽ではないものの、実際にたのしい発見のプロセスでした。ひとつ素晴らしいかったのは、私が結婚しようとしたのは、私が思つたよりも男性は、私が切れる男性を考えが深く、頭の折にふれ気づかされたことです。

子ども、出産、家族計画などについて話し合っていたとき、夫のジョシュが何気なく言つたひと言で、会話の方向が定まりました。

「結婚する準備ができるということは、僕たちは子どもを持つ用意ができているはずだよね」

それは、私とつて明らかのことだつたはずなのに、実は、少なくとも最初のうちははつきりとはしていませんでした。

き、私は大学を卒業していくま
したが、ジョシュはまだ入学
もしていませんでした。彼
は、仕事をやめフルタイムで
勉強しようとしていたので、
子どもを持つか持たないかと
いう決断をするのは、単純な
ことではありませんでした。
それで、私は結婚と出産とは
別のことだと決めつけていま
した。しばらくは別のことで
なければならなかつたので
す。

子どもを「まちがい」と考えることに慣れていたら、私たちは結婚後にどんな影響を受けるでしょうか？

ある夫婦には、これはまったく問題にはなりません。出産を頭に入れて結婚し、育児の期間を楽しみにしています。

一方、ますます多くの夫婦が、自分自身の教育、余暇、経済、仕事などを人生計画の中で綿密に組み立てていて、子どもをやはり「まちがい」のようにみなしています。親

いと、じゃまものになつてしまひます。

クリスチャンとして一貫して世界観を持ちたいなら、子どもをそのようにみなすことはできません。聖書は、子どもを生み、育て、しつけをすることは、ほとんどのクリスチヤンにとって優先課題であると言ひます（注1）。また、自分の自由、自分の計画に固執して、神さまの計画の入る余地をなくしてしまつてはいけないとも言ひます（注2）。